

# 卒業論文のテーマから見る若者の関心事

信金中金月報掲載論文編集委員

村上 恵子

(県立広島大学 経営情報学部教授)

『信金中金月報』2月号がみなさまのお手元に届くのは、卒業を間近に控えた大学生が自身の学びの集大成とも言える卒業論文を提出し、ほっと一息つく時期に重なる。卒業論文発表会が開催される大学では発表に向けていまだ落ち着かない日々を送る学生もいるが、この時期、多くの学生は卒業論文を書き上げるという生みの苦しみからは少なくとも解放されていると思われる。

筆者が専門ゼミナールを担当する学科では、すべての学生に卒業論文の提出と卒業論文発表会での報告が義務付けられており、毎年、60名強の学生が卒業論文を提出する。卒業論文のテーマは基本的に学生が自身の関心に基づいて決定するため、例年、多様なテーマの卒業論文が提出されるが、そのうち金融に関するテーマを選択する学生は全体の1割から2割程度である。少人数教育を特色とする公立大学であるため学生数が少なく、傾向を読み解くのに十分なデータは無いが、学生たちが書く卒業論文に定番のテーマはあるのか、それともその時々金融・経済情勢に応じてテーマは変化するのかを、過去5年間までさかのぼり、当時の状況を振り返りつつ確認してみたい。

まず2016年、この年は1月に日本銀行がマイナス金利付き量的・質的金融緩和を導入した年である。この時期に書き上げられ、2017年1月末に提出された卒業論文の題目を見ると、「家計の有価証券での資産運用」、「(株式投資収益率に見られる)半年効果」、「心理的バイアスと投資活動」、「確定拠出年金」といった言葉が並ぶ。2017年は1月に個人型確定拠出年金iDeCoの加入対象が拡大され、10月には日経平均株価が16日連続で上昇する等、世界的な株高が観測された年であるが、この時期に書かれた論文では「投資信託商品の手数料」や「ロボアドバイザーの普及」、「投資を促す金融教育」の他、「暗号通貨(ビットコイン)」や「社会的インパクト投資」といったキーワードが確認できた。1月につみたてNISAがスタートし、6月に金融庁の新たな検査・監督のあり方が示された基本方針が公表された2018年は、卒業論文の題目に「キャッシュレス決済」、「クラウドファンディング」、「仮想通貨」という言葉が見られる。2019年は6月に金融審議会市場ワーキング・グループの報告書が公表され、老後

資金に注目が集まった年である。この年は、「REIT」や「NISA」、「ロボアドバイザー」等のテーマで書かれた卒業論文を目にすることができた。そして、新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年に執筆された卒業論文では、「ESG投資」の他、「ご当地ファンド」や「クラウドファンディング」、「個人型確定拠出年金」といった言葉が並んだ。なお、地方銀行や保険会社の経営戦略や財務分析など、金融機関の経営や財務に着目した論文は、どの年も数本存在した。

ここから見えてきたのは、投資や資産形成に関心を持つ学生が毎年一定数存在することである。先述の問いに答えるならば、投資や資産形成は近年、卒業論文の定番テーマの1つになっているという回答になろう。これは筆者が勤務する大学特有の傾向であるかもしれない。この分野は先行研究や参考資料、利用可能なデータが多く公表されており、大学生がテーマとして選択しやすいことが影響している可能性もある。しかし、日本証券業協会が3年毎に実施している「証券投資に関する全国調査」の最新版(2021年12月15日発表)でも、20代の若者のうち証券投資が必要だと考える割合は34.4%で、この値は前回2018年調査の23.5%から10.9%上昇したことが報告されている。資産形成の必要性を感じている若者の増加は全国的な傾向でもあるようだ。

ところで、同時期、信用金庫をテーマに卒業論文を書いた学生はいたか。何度も見直したが、過去5年間で確認できたのは、2018年度に書かれた信用金庫の経営分析に関する2本の論文だけであった。地方銀行に関する卒業論文はほぼ毎年提出されているにもかかわらず、である。信用金庫は研究テーマになりにくいのか。そこで、過去の『信金中金月報』を読み直し、どのようなテーマの論文が掲載されているかを確認した。「信用金庫のガバナンスについての検証—理事会の構成・運営状況を考慮した実証研究—」(2020年5月号)、「地域金融機関による経営者教育が企業経営に与える影響の検証—金沢信用金庫による取り組み事例—」(2019年7月)、「信用金庫再編後の経営改善効果—合併効果の推計—」(2017年7月)、「判別分析による問題信用金庫の財務特性について」(2010年4月)など、信用金庫に関する多様な研究論文が掲載されている。ガバナンスや経営者教育、経営改善、財務特性は、金融論ゼミナールに所属する学生だけでなく、会計学ゼミナールや経営学ゼミナールに所属する学生の関心を引くテーマにも思える。信用金庫は興味深い研究対象になり得るはずなのになぜ…、そのようなことを考えていたら、筆者のゼミナールに所属する学生が卒業論文のテーマの相談に来た。「信用金庫による事業承継の支援に興味がある」とのこと、さて、これを機に私も信用金庫の研究の世界に一歩足を踏み入れてみようか。